

関係機関等の長 殿

国立大学法人北海道大学

大学院歯学研究院長 飯村 忠 浩

(公印省略)

口腔病態学分野放射線学教室教授候補者の公募について（依頼）

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、本研究院では専任教員として口腔病態学分野放射線学教室を担当する教授候補者を公募することとなりました。

歯科放射線学および放射線医学に関連した教育・研究・臨床能力に優れ、かつ歯学研究院・歯学院・歯学部、北海道大学病院、北海道大学の管理運営にも積極的な役割を果たして下さる人材を教授に招聘したいと考えております。

大学院教育としては大学院生の研究指導を、大学院科目としては現在放射線学教室が担当している歯科放射線学、口腔画像診断学、放射線生物学研究Ⅰ・Ⅱ、放射線治療学研究Ⅰ・Ⅱ、画像診断学研究Ⅰ・Ⅱ、口腔病態学実習ⅠからⅤ等を、学部科目としては歯科放射線学、歯科放射線学基礎実習、歯科放射線学臨床実習Ⅰ・Ⅱを担当していただきます。さらに全学教育科目も担当していただきます。

加えて卒後の臨床教育として、責任感、倫理観、情熱をそなえ、人間性豊かな優れた歯科臨床医学者、教育者および歯科放射線認定医、専門医、指導医を育成できる方を望みます。研究においては、歯科放射線学およびその関連分野で学際的・国際的に高く評価される研究を展開できる人材を求めます。

また、北海道大学病院においては口腔科歯科放射線科長として臨床に従事し、さらに医科・歯科連携の強化、すなわち放射線診断科ならびに放射線治療科を含む関連診療科と協働して北海道大学病院歯科の活性化に積極的に取り組んでいただく必要があります。また、大規模災害その他、多数の身元確認を必要とする事態に際しては、これまで放射線学教室が取り組んできた法歯学関連領域の実績と知見を継承し、北海道大学病院の関連部門と連携しながら対応するとともに、地域の歯科医療提供体制の維持・確保に貢献していただくことを期待しています。本学の理念やビジョンを理解し、本学の発展に寄与できる方を望みます。

本公募は本学における男女共同参画推進施策の一環として、男女雇用機会均等法第8条の規定に基づき、選考において評価が同等である場合は、女性を優先して採用します。

つきましては、ご多忙のところ恐縮に存じますが、貴機関等の関係者にご周知くださいますとともに、適任者をご推薦賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

謹白

※ 公募要領については、

本研究科ホームページ (<http://www.den.hokudai.ac.jp/jimu/koubo.html>) 及び研究者人材データベースシステム (<http://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekTop>) でもご覧になれます。

国立大学法人北海道大学大学院歯学研究院
放射線学教室教授候補者
公 募 要 領

I. 提出書類

下記の1～10の書類各1部と、2～10を電子化しそれぞれPDFファイルで保存した記録媒体（CD、DVD、USBメモリ等）

1. 推薦書
2. 履歴書（別紙様式1）
3. 教育等の業績
4. 研究業績目録、業績数一覧表（別紙様式2）
5. 主要論文別刷
6. 研究助成金の受領状況
7. 共同研究等の実施状況
8. 臨床等の業績
9. その他の活動、社会貢献等
10. 教育、研究および臨床に対する考え方

（提出書類の作成に際しては、別紙記載上の注意事項を参考にしてください。）

II. 応募締切 令和8年8月17日（月）必着

III. 提出先

〒060-8586

札幌市北区北13条西7丁目

北海道大学歯学事務部庶務担当

電話 011-706-4313（直通）

（提出書類は書留とし、封書表には「口腔病態学分野放射線学教室教授候補者応募書類在中」と朱書願います。）

なお、ご送付いただいた書類および記録媒体は返却いたしませんので、予めご了承ください。また、ご送付いただいた書類等は教授候補者選考以外には一切使用いたしません。

IV. 照会先

口腔病態学分野 教授 大廣 洋一

電話 011-706-4283（教室）

電子メール yohiro@den.hokudai.ac.jp

V. 待遇

1. 任期の定め なし
2. 試用期間 あり（3ヶ月）
3. 給 与 国立大学法人北海道大学年俸制教員給与規程による
4. 勤務形態 専任教員
同意に基づく専門業務型裁量労働制（※）または固定労働時間制を適用
（※1日に7時間45分労働したものとみなす）
5. 健康保険等 文部科学省共済組合、厚生年金、労災保険、雇用保険加入
6. 所 属 （雇入れ直後）大学院歯学研究院口腔病態学分野放射線学教室
（変更の範囲）大学の定める場所
7. 職務内容 （雇入れ直後）大学院歯学研究院及び歯学部（全学教育を含む）に係る教育研究に従事するとともに、全学及び研究院等における各種委員会委員等の管理運営業務に従事
（変更の範囲）大学の定める業務

VI. 募集者の名称 国立大学法人北海道大学

VII. 受動喫煙防止措置の状況 特定屋外喫煙場所を除き、敷地内禁煙

VIII. その他

選考の過程において、ご来学の上、ご講演及びご面談をお願いすることがあります。

本公募は本学における男女共同参画推進施策の一環として、男女雇用機会均等法第8条の規定に基づき、選考において評価が同等である場合は、女性を優先して採用します。

記 載 上 の 注 意 事 項

＜用紙はすべてA4版縦とする＞

1. 推薦書

推薦書の様式は自由であるが、推薦者の所属・職名を明記すること。

2. 履歴書

- 1) 年齢欄には、記載日に対応する現在の年齢を記載すること。
- 2) 学歴欄には、高等学校卒業以降の学歴を記載すること。
- 3) 学位欄には、() 書きで授与された大学名を併記すること。
- 4) 職歴欄には、所属の分野、診療科名等も記載すること。
- 5) 留学欄には、期間、受入施設名、国名、身分を記載すること。
- 6) 受賞等欄には、学会賞等の受賞について記載すること（本人筆頭のものに限る）。
- 7) 所属学会欄には、学会名及び役職名等を記載すること。
- 8) 認定医、専門医、指導医等には、その種類、認定年月日、学会名を記載すること。

3. 教育等の業績（下記の項目に該当するもの）

＊各項目毎に、教員採用前（大学院、医員など）と教員採用後に分けて記載すること

1) 講義

学部学生と大学院生の講義について、それぞれの担当授業科目名、担当内容（簡潔に）、担当年度（期間）、担当時間数を記載すること。また、教育効果を高めるための試み・工夫についても記載すること。なお、担当時間数はコマ数として記載し、1コマの時間（60分、90分等、分単位で）も併記すること。

2) 実習（臨床実習を含む）

学部学生、医員（研修医）及び大学院生の実習について、それぞれの担当内容（簡潔に）、担当年度（期間）、担当時間数（コマ数）を記載すること。また、実習において、教育効果を高めるための工夫や試みたこと、ならびに、実習環境を整えるために実施したことなどについて記載すること。

3) 博士論文の指導状況

これまでに応募者が研究指導を行った博士論文について、著者全員の氏名、発行年（西暦）、論文タイトル、雑誌名、巻、ページ（始めと終わり）の順序（欧文誌の場合は、欧文表記）で記載し、その後に応募者の指導内容（役割）を記載すること。

4) 学生指導

学部及び大学院学生等の個別指導（クラス担任、学生相談、クラブ活動、留学生指導等）の時期及び内容を記載すること。

5) 委員会活動

大学内外における各種委員会活動について、その時期（期間）及び委員会名とその委員会での役割を記載すること。

4. 研究業績目録

以下の順序で記入し、1) から7) の各項目別に通し番号を付すこと。また、記載はすべて年代順とし、本人の名前に下線を引くこと。また、業績数一覧表（別紙様式2）にも記載すること。

1) 著書

① 編著者の場合

編著者全員の氏名、発行年（西暦）、書名、発行社名、発行地、総ページ数の順序で記載すること。

② 分担執筆の場合

分担執筆者全員の氏名、発行年（西暦）、分担執筆部分のタイトル、編者名、書名、発行社名、発行地、記載ページ（始めと終わり）の順序で記載すること。

2) 原著論文

各論文について、著者全員の氏名、発行年（西暦）、論文タイトル、雑誌名、巻、ページ（始めと終わり）の順序（欧文誌の場合は、欧文表記）で記載すること。また、原著論文のうち、レフリー制度をもつ論文については、通し番号を○印で囲むこと。さらに、英文原著論文については、*impact factor* のある論文とない論文に分け、各論文の記載項目の最後に、発行年の *impact factor* (IF) および応募時点での *citation index* (CI) を、(IF: 、CI:) のようにカッコ書きで付記し、IF および CI のそれぞれの合計も記すこと。また、*h-index* を記すこと。なお、IF、CI、*h-index* は、Clarivate Analytics 社の Web of Science Core Collection (URL: <https://www.webofscience.com/wos/woscc/basic-search>) を用いて検索・集計すること。また、*corresponding author* の名前の右上に*をつけること。印刷公表前の論文については必ず掲載証明書を添付すること。なお、シンポジウムや *Proceeding* などの論文は、後記する3) 総説・症例報告・速報・その他の論文（商業誌等）に記載し、原著論文の業績に含めないこと。

3) 総説・症例報告・速報・その他の論文（商業誌等）

前記2) 原著論文と同様に、IF のある論文とない論文に分け、各項目を記載すること。なお、IF のある総説・症例報告についても、記載項目の最後に、発行年の IF および応募時点での CI を付記すること。IF および CI の合計、*h-index* も前記2) と同様に記すこと。印刷公表前の論文の扱いについても前記2) と同様、掲載証明書を添付すること。

4) 特別講演・シンポジウム等

筆頭演者として招待されたものに限り記載すること。発表者全員の氏名、発表年（西暦）、発表タイトル、学会名等（抄録誌、巻、ページ）の順で記載すること（国際学会等での発表の場合は、欧文表記）。

5) 主な国際学会発表

筆頭演者として発表したものに限り、前記4) に準じて記載すること。共同演者として発表したものについては学会名と数のみ記載すること。

6) 主な国内学会発表（最近5年間、令和2年6月以降のもの）

筆頭演者として発表したものに限り、前記4) に準じて記載すること。共同演者として発表したものについては学会名と数のみ記載すること。

7) 特許等

取得済・出願中の別を記載すること。

5. 主要論文別刷又は複写（主なもの10編、電子複写でも可）とその要旨

別刷を提出する主要な論文10編について、著者全員の氏名、発行年（西暦）、論文タイトル、雑誌名、巻、ページ（始めと終わり）の順序（欧文誌の場合は、欧文表記）で記載し、その後それぞれ200字以内の要旨を添付すること。

6. 研究助成金の受領状況（これまでに受領したものすべて）

これまでに受領した科学研究費補助金等の研究助成金の受領状況について、受領年度（期間）、研究助成金の名称、課題番号、研究課題名、受領金額を記載すること（研究代表者に限る）。

7. 共同研究等の実施状況（これまでに実施したものすべて）

これまでに行った学外・学部外施設との共同研究の実施状況について、実施年度（期間）、共同研究施設名、共同研究課題、応募者の役割分担（簡潔に）を記載すること。

8. 臨床等の業績（下記の項目に該当するもの）

- 1) 読影件数（最近5年間で単年度を選び、応募者が読影コメントを記述したものに限る。）
- 2) 今までに経験し印象に残った自験画像診断症例10例について（書式は自由ですが、写真等をつけてわかりやすい内容とすること。）

9. その他の活動、社会貢献等（公開講座、テレビ出演・新聞掲載、生涯研修等）

応募者が自ら行ったものについて、題目、場所・放送局・新聞社・主催者等、年月日の順に記載すること。

10. 教育・研究・臨床に対する考え方

放射線学に関する以下の項目についての将来の抱負を、各々2000字程度で記載すること。

- 1) 教育について
- 2) 研究について
- 3) 臨床について
- 4) 管理・運営について

以 上